インタビュー技法として以下の４つを紹介した。

⑴ 構造化インタビュー：

質問紙やアンケートなどを準備し、それをもとに対話をしながら質問して答えてもらう（記入する）方法。このとき、質問以外の内容も深く聞けたら、それも記入する。１対１の質疑応答ではなく、もう少し自由に意見が聞けるような質的に深いものが必要。

⑵ 半構造化インタビュー：

インタビュー前に、質問項目を決めておく。録音したりメモを取りながら⑴よりも自由な形式で話してもらう。自由なおしゃべりの中で、魅力的な話などが出てくることがあるのがメリットで、質問事項もある程度決まっているので内容も整理しやすい。

⑶ 非構造化インタビュー：

方言の調査をしたり、色々な考えを聞きたいときによく使われる方法。⑴や⑵のように質問内容が決まっていない。自由に話してもらいながら、インタビューする人はその内容を記録していく。深く、長いインタビューになることが多い。

⑷ フォーカス・グループ・インタービュー

答える人が一人ではなく、何人かのグループに対してインタビューする方法。学校の保護者、スーパーのお客さんなどにインタビューをするときに使える方法。色々な答えが一度のインタビューで集められるのがメリットだが、たくさんの人に一度にインタビューすることになるので、インタビューをする人の技術も必要な方法である。